

2008年度 大学院法務研究科

法学既修者認定試験

刑 法

(問 題)

問1

甲は、自宅マンション9階の903号室において夫婦喧嘩の際に妻Xに罵られたことからXに殺意を抱き、台所から洋出刃包丁を取り出してXの左胸部等を数回突き刺したところ、重傷を負ったXは玄関から逃げ出そうとした。そこで、甲はXを居間に連れ戻したところ、血だらけになりながらぐったりしたXをみて、そのまま放っておいても間もなく出血死するだろうと思い、包丁を台所の流しに置きに行った。しかし、その際にXはベランダに逃げ出して、両足をベランダの手すりに乗せ、背中をベランダの外側に向けて、膝を曲げた状態でベランダの手すり伝いに隣家の902号室に逃げ込もうとしたので、甲は逃すわけにはいかないという気持ちで追いかけ、Xを部屋の中に連れ戻して共にガス中毒死しようと考え、Xに掴みかかったところ、Xはその手を振り払って抵抗しているうちにバランスを崩してベランダから約24メートル下の地面に転落し、背部及び胸部打撲による外傷性ショックにより死亡した。

甲の罪責を論じなさい。

問2

甲(45歳・女性)は、生活費に困窮し、14歳の息子乙に対して、X(60歳・女性)が一人で切り盛りしている飲食店に強盗に入るよう指示命令した。乙は、はじめは渋っていたものの、甲が「言うことを聞かなければ家には置かないよ」と言ったので、しぶしぶ強盗の実行を引き受けた。そこで、甲は乙にモデルガンと覆面を渡して、具体的な実行方法を教えた。乙は、甲の指示通り、Xの店に开店前に押し入り、Xをモデルガンで脅すと共に、自分の判断でXに店のシャッターを下ろすよう命じた。乙の持っていたモデルガンを本物の銃であると信じたXは、殺されるかもしれないと思って、シャッターを下ろしに行くよう装い、隙をみて店の外の道路に逃げ出したが、サンダル履きで駆け出したため転倒し、たまたまそこを走行していた自動車に轢かれて死亡した。乙は、それをみて事の重大さを悟り、何も盗らずに帰った。

甲・乙の罪責について論じなさい。